

平成28年度

ふじみ野市平和祈念フェスティバル

実施報告書

平和のためのハーモニーを奏でよう

“一人ひとりの小さな一歩で”



主 催 ふじみ野市／ふじみ野市教育委員会
企画運営協力 ふじみ野市平和推進事業実行委員会

はじめに

ふじみ野市は、平成22年10月1日に「ふじみ野市平和都市宣言」を制定しました。これは、ふじみ野市から平和の大切さを発信するため、宣言したものであります。

恒久平和を願う心は、常に誰もが持つものであり、この願いがある限り戦争のない平和な世界が訪れることができると信じるものです。

本市における平和事業は、平成17年10月1日にふじみ野市が誕生した以後、継続して事業に取り組んでまいりました。

本事業は、平成25年度からふじみ野市〈協働推進課〉とふじみ野市教育委員会〈社会教育課〉との共催事業として取り扱うとともに市民により構成がされる「ふじみ野市平和推進事業実行委員会」を組織し、企業の企画・運営に協力をいただき、事業を実施し、本年度におきましても市民一人ひとりが持つ市民力を生かした事業実施に意を尽くすとともに多くの市民の参加をいただけるよう創意工夫をしてまいりました。

お陰様をもちまして、平和事業は、盛況にて終了しました。今後におきましては、この実績・経験を踏まえ、さらに本事業の充実を図ってまいります。

市民の方におかれましては、「平和」であることの尊さを再認識していただき、市民一人ひとりの力はたとえ小さなものであっても、地域として、市としてのまとまりができれば、それは決して小さな力ではなく、とても大きな力となって世界に発信することができるはずです。

まず、一人でできる小さなことから始めてみてください。争いのない未来がそこにあるはずです。

平成28年10月

ふ　　じ　　み　　野　　市
ふ　じ　み　野　市　教　育　委　員　会
ふ　じ　み　野　市　平　和　推　進　事　業　実　行　委　員　会

目 次

1	実施報告書	2 p
2	フェスティバル写真	5 p
3	入場者アンケート調査結果	10 p

資料編

1	ふじみ野市平和都市宣言	13 p
2	平和祈念作文	14 p
3	講師プロフィール	18 p
4	平和記念講演会要旨	19 p
5	フェスティバル開催までの経緯	20 p
6	ふじみ野市平和推進事業実行委員会設置要綱	21 p
7	ふじみ野市平和推進事業実行委員会委員名簿	22 p

1 実施報告書

平成28年度 ふじみ野市平和推進事業実施報告書

1 目的

この事業は、平成22年10月に制定した「ふじみ野市平和都市宣言」を受けて、市民の願いである恒久平和の実現に向けて、市民との協働により様々な事業に取り組み、平和のための草の根運動の輪を広げ、もって、ふじみ野市から平和な社会づくりの声を世界に発信することを目的として開催しました。

2 テーマ

「ふじみ野市平和祈念フェスティバル」

3 事業名

「平和のためのハーモニーを奏しよう “一人ひとりの小さな一歩で”」

4 実施内容

(1) 平和作文朗読

平成27年度に発行した「ふじみ野市平和記念誌」に掲載した市民から応募のあった作品のうち、作文・詩の部で最優秀賞を受賞した作品を受賞者自ら、朗読していただき、平和への思いを市民に対して、伝えていただき、平和活動のすそ野の広がり推進を図ることを目的として開催しました。

【朗読者】

小学生の部	ふじみ野市立亀久保小学校	山東 到生 氏
中学生の部	ふじみ野市立大井東中学校	金澤 紀杏 氏
一般の部		久保 久次 氏

【所要時間】

15分

(2) 講演会

恒久平和を祈念した講演会を開催し、平和への思いを市民とともに共有し、平和活動のすそ野の広がり推進を図ることを目的として開催しました。

【講師】

ふじもん先生の旅プロジェクト 代表 藤本 正樹 氏

【演題】

「世界を平和にする」って何だろう。

～世界を87か国のリアルを見てきた「元先生」が語ります～

【所要時間】

65分 ※質疑応答時間を含みます。

(3) 音楽コンサート

ふじみ野市の未来を担う中学生に部活動で練習してきた成果の発表の場として、本事業で演奏していただき、音楽を通じて平和への思いを市民に伝えていき、平和活動のすそ野の広がり推進を図ることを目的として開催しました。

【出演者】

ふじみ野市立大井中学校音楽部（合唱）

【演目】

- ①翼をください
- ②花火ひらく
- ③羽ばたけふじみん
- ④ふるさと

【所要時間】

20分

(4) パネル展示会

平成27年度に発行した「ふじみ野市平和記念誌」に掲載した市民から応募のあった作品のうち、絵画及び写真をパネル化したものを市役所、大井総合支所、ふじみ野市立市民交流プラザの各ギャラリーで巡回展示し、市民から寄せられた平和への思いを伝えていただき、平和活動のすそ野の広がり推進を図ることを目的として開催しました。

【展示数】

絵画31点、写真6点（総数37点）

4 開催日時・場所

(1)～(3)までの事業

日時 平成28年10月1日（土）午後1時～午後3時

場所 ふじみ野市立市民交流プラザ 多目的ホール

(4)の事業

ア 日時 平成28年8月8日（月）～平成28年8月19日（金）

場所 ふじみ野市役所 ギャラリー

イ 日時 平成28年8月23日（火）～平成28年9月16日（金）

場所 大井総合支所 ギャラリー

ウ 日時 平成28年9月17日（土）～平成28年10月7日（金）

場所 ふじみ野市立市民交流プラザ ギャラリー

5 参加者数

192人（10月1日分）

平成 28 年度ふじみ野市平和推進事業 イベント次第（進行表）

日時 平成 28 年 10 月 1 日（土）午後 1 時～午後 3 時

場所 ふじみ野市立市民交流プラザ 多目的ホール

1 開 会

2 平和都市宣言紹介

3 主催者紹介

4 ふじみ野市長挨拶

5 ふじみ野市平和推進事業実行委員会会長挨拶

6 平和作文朗読

【朗読者】

小学生の部 市立亀久保小学校 山東 到生 氏

中学生の部 市立大井東中学校 金澤 紀杏 氏

一般の部 久保 久次 氏

7 講演会

講 師 ふじもん先生の旅プロジェクト 代表 藤本 正樹 氏

演 題 「世界を平和にする」って何だろう。

8 音楽コンサート

出演者 ふじみ野市立大井中学校音楽部（合唱）

曲 目① 「翼をください」

曲 目② 「花火ひらく」

曲 目③ 「羽ばたけふじみん」

曲 目④ 「ふるさと」

9 閉 会

開 会 式



司会・進行担当
田村副会長



開会あいさつ
星野委員



平和都市宣言紹介
早瀬委員



主催者あいさつ
高畑市長



実行委員会会長あいさつ
郡司会長

平和記念作文朗読



平和記念講演会



ふじもん先生の旅プロジェクト 代表 藤本 正樹 氏

平和記念音楽コンサート



大井中学校音楽部の皆さんのミニコンサート

閉 会 式



閉会のあいさつ
小林委員

平和記念パネル展示会



3 入場者アンケート調査結果

調査日：平成 28 年 10 月 1 日(土)

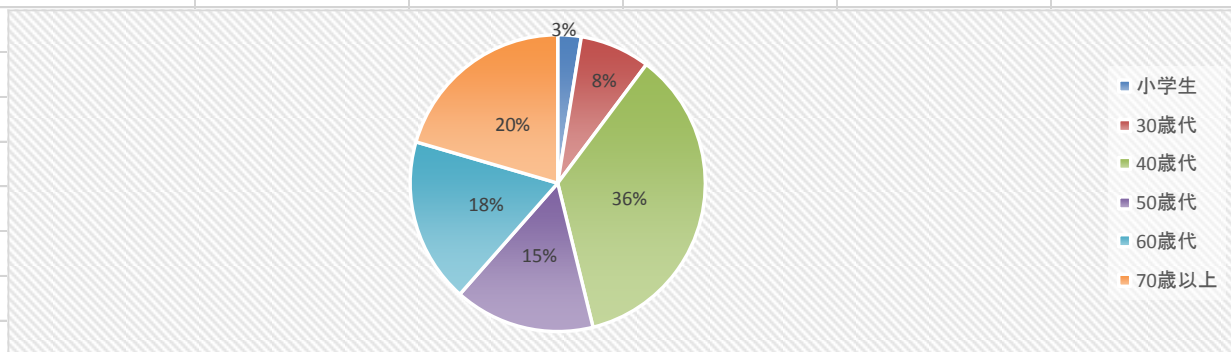
調査場所：ふじみ野市立市民交流プラザ 多目的ホール

調査対象者：市民

調査結果：回答者総数 39 人

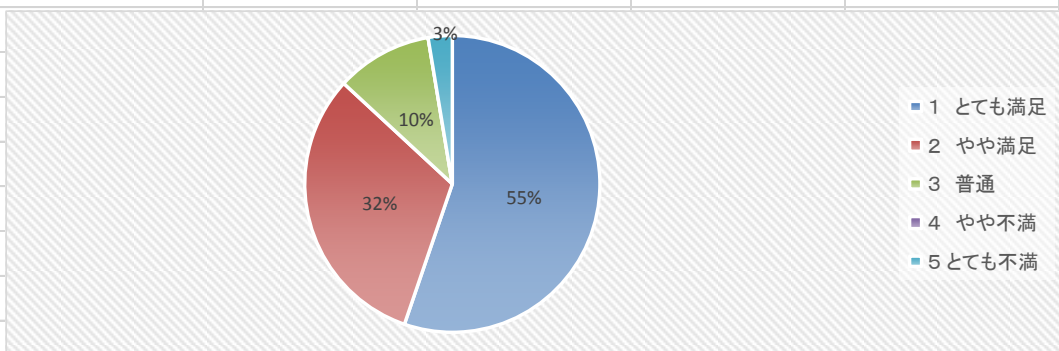
はじめに、あなた自身のことについておたずねします。

小学生	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
1	3	14	6	7	8



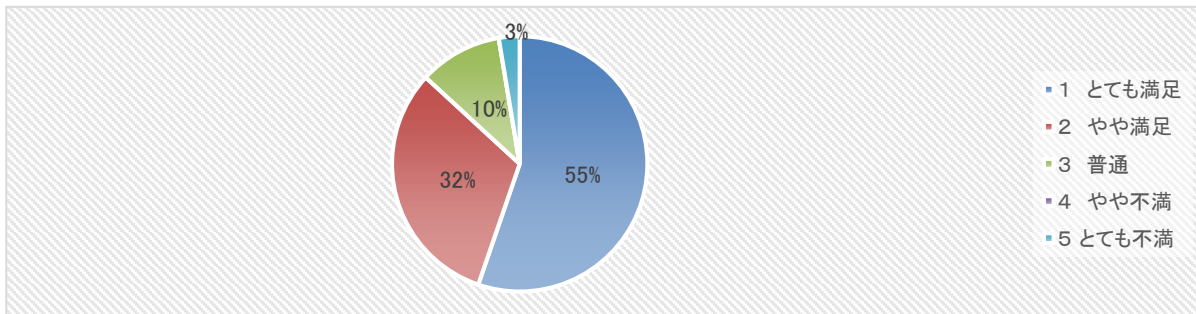
問1 本日のイベントの総合満足度をお聞かせください。

1 とても満足	2 やや満足	3 普通	4 やや不満	5 とても不満
21	12	4	0	1



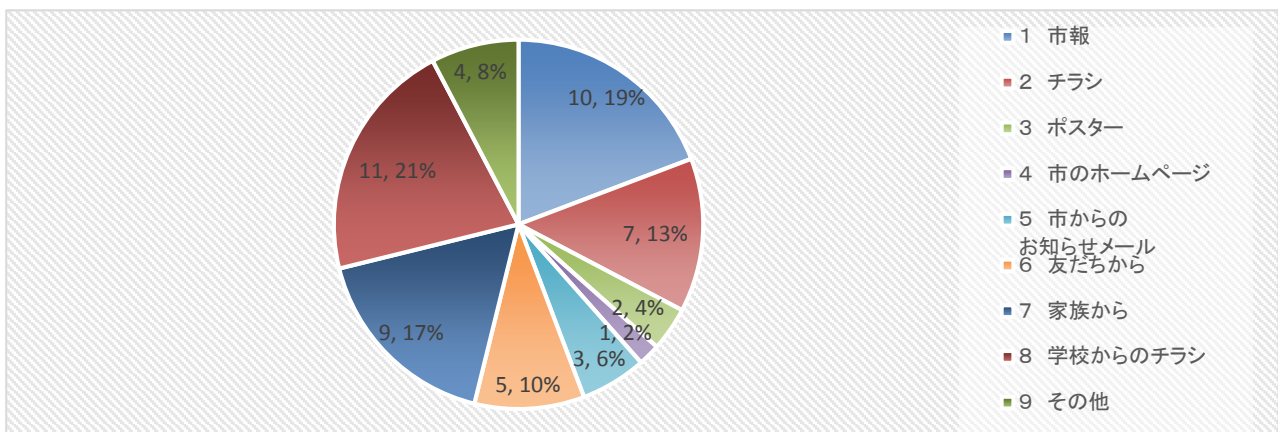
問2 本日のイベントに参加して、平和についてどの程度理解を深めることができたかをお聞かせください。

1 よく理解できた	2 やや理解できた	3 普通	4 やや理解できなかった	5 ほとんど理解できなかった
15	18	3	0	0



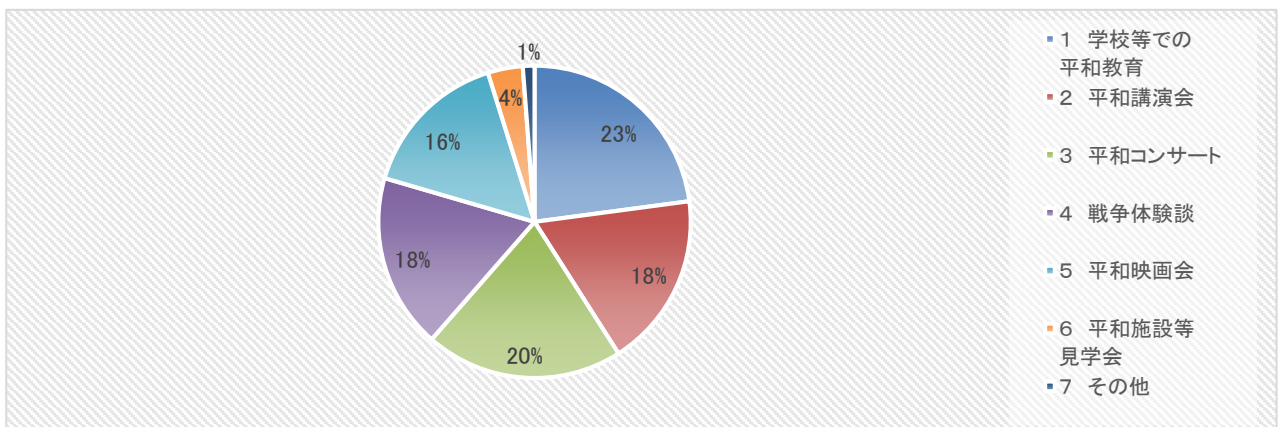
問3 本日のイベントの開催を何によって知りましたか。(複数回答可)

1 市報	2 チラシ	3 ポスター	4 市のホームページ	5 市からのお知らせメール	6 友だちから	7 家族から	8 学校からのチラシ	9 その他
10	7	2	1	3	5	9	11	4



問4 平和について 市民の皆さん一人ひとりが考えたり、家族や友人と話し合ったりする「きっかけづくり」として、どのようなイベントの開催が有効だと思いますか。(複数回答可)

1 学校等での平和教育	2 平和講演会	3 平和コンサート	4 戦争体験談	5 平和映画会	6 平和施設等見学会	7 その他
19	15	17	15	13	3	1



その他感想

●朗読

- ・朗読に感銘を受けた。私の祖父も戦死したので、父や祖母のことを思い出しました。
- ・「命は自分だけのものではない」と話す小学生がいることに感動した。大切なことに気づくきっかけがあるといいと思った。

●講演会

- ・藤本先生のおもしろかった。
- ・若い人たち、子どもたちにわかりやすいと思うので、その世代にも聞いてもらいたかった。
- ・世界とつながることが平和につながるということがわかった。今まで外国とは他人事でした。
- ・色々な体験を通して感じたことの話はよく伝わると思った。
- ・ふじもん先生の授業は平和や愛について今一度思い直した。このような貴重な機会があった。
- ・ふじもん先生の話は講演会ではなく、学校の授業の一環として子どもたちにもこのような講演を聞いてもらえたら、世界観も変わるのではないかと感じた。
- ・消費生活主義をコントロールできなければ人類に未来はないし、平和にもつながらないと思った。
- ・平和の愛、価値観、大変難しく思った。
- ・身近なことから遠く感じた。
- ・画像をなんとかしてほしかった。

●音楽コンサート

- ・大井中音楽部の語りかけるような歌声がすばらしかった。

●全体を通して

- ・朗読、講演、合唱とバラエティに富んでいてよかった。
- ・平和について考える機会になった。決して「戦争がない＝平和」ではなく、今後日本のことについて考える必要がある。

資 料 編

- 1 ふじみ野市平和都市宣言
- 2 平和祈念作文
- 3 講師プロフィール
- 4 平和記念講演会要旨
- 5 開催までの経緯
- 6 ふじみ野市平和推進事業実行委員会設置要綱
- 7 ふじみ野市平和推進事業実行委員会委員名簿

ふじみ野市平和都市宣言

平成22年10月1日

告示第218号

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。

この願いを実現するために、私たちは唯一の被爆国として、広島・長崎の惨禍を忘れることなく、核兵器の廃絶を世界に訴え続けています。

しかし、今なお世界の各地では武力抗争が絶えず、自然や文化が破壊され、多くの尊い命が失われています。

私たちは、家族を愛し、ふじみ野市を愛し、日本を愛し、美しい地球を愛します。

私たちは、誰もが安全で安心な生活を営むことができる平和な世界の実現に寄与することを誓います。

ここに、ふじみ野市から平和の大切さを発信するため、「平和都市」を宣言します。

平成22年10月1日

ふじみ野市

「ぼくの命」

さんどう とうい さん (亀久保小学校・5年)

「今日ここで一緒に死のうね。」

これは、七十年前、僕の祖母が祖祖母に泣きながら言われた言葉だ。電話越しにその話を聞いて、僕の戦争のとらえ方が一瞬で変わった。こんなに身近に戦争があった。いつも笑顔の祖母が、こんな経験をしていたなんて。

沖縄の祖母は、その時まだ4才だった。沖縄戦は国内で唯一、民間人も巻き込まれた地上戦だ。四人に一人が戦死したほど、ひどい激戦だった。祖母は祖祖母に連れられ、弟ふたりと逃げ森に隠れていた。次に海に向かった。いつもの青い海は米軍の軍艦で埋め尽くされていた。特攻隊が軍艦に突っ込む前に撃たれ、ゴミのように散っていくのをいくつも見た。祖母には特攻隊の飛行機の落ちていく音がとても悲しい音に聞こえたようだ。海からの艦砲射撃の中を、祖母たちは走って逃げて行った。死ななかつたのが不思議なくらいだ。その後しばらくして、祖母たちは捕虜になった。捕虜収容所では食べ物の配給がほとんどなく、祖母の祖父は家族のために一人抜け出して食べ物を探しに行った。しかしすぐ捕まってしまう、牢屋に入れられ大変苦しい思いをしていた。祖祖母は自分たちのために親に苦しい思いをさせているという罪悪感に耐えきれず、子供3人を連れて森へ行った。そして祖祖母は泣きながらこう言ったのだ。

「今日ここで一緒に死のうね。」と。

いったいどれだけの覚悟でそう言ったのだろう。祖母は「死」が迫ってきているように感じわあわあ泣いた。それを見て祖祖母は我に返り、「ごめん」と言って収容所に戻ったという。その後苦しい生活を続けながら、やっと終戦の時が来た。捕虜から解放され、ふるさとへ戻ってきた。しかし、そこには家もなくなり田畑もない。全て米軍の飛行場になっていた。住民は一カ所に集められた。やがてマラリアがはやり、バタバタと周りの人が死んでいった。実は祖母もマラリアにかかったそうだ。戦争が終わったのは小学校一年生の頃だったが、朝になると発作でガタガタふるえ、ほとんど学校へ行けなかった。やっと行けた学校で、竹串で地面に「あ」と一文字書いたのを今でもよく覚えているそうだ。その後も生活は楽にならず、家の手伝いをしなくてはいけなかったので、かくれて勉強していた。そんな祖母が努力を重ねて、小学校の校長先生になったのはすごいなと思う。

今回、祖母の戦争体験を聞いて思ったことは、「僕の命は僕だけのものじゃない」ということだ。あの時、祖祖母が祖母を守ってくれたから母が生まれ、僕がこうして生きていられる。命の重さを体中で感じた。そして、そんな命の重さを感じられなくしてしまうのが戦争だ。戦争のない世界を作っていきたい。そうやって一生懸命生きていくことが、次の未来を任う命をつないでいくことだと思うから。

「平和と戦争」

かなざわ の あ
金澤 紀杏 さん (大井東中学校・2年)

平和とは誰もが幸せに楽しく、毎日笑顔でくらすることだと考えます。今、平和な国は何か国あるでしょうか。私は平和な国とは戦争のない国だと思います。

戦争は本当に良いことなのでしょうか。戦争は苦しいのは戦争中はもちろんですが、戦後も厳しい状態でした。そして、国民の本当の気持ちはどうだったのでしょうか。兵士になり、国のために戦いたかったのでしょうか。その気持ちは人それぞれかもしれませんが、私はそうは思いません。もっと家族とくらしたりしたかったのではないかと思います。国民も配給があったとはいえ、食べ物も十分にはもらえずいつ爆弾が落ちてくるか分からない恐怖と生きていたと思います。

誰が戦争など望んでいたのでしょうか。この戦争でどれだけの人々が苦しみ、悲しみ、亡くなったのでしょうか。戦争が終わってから七十年。今も苦しんでいる人はたくさんいます。

今年は節目の年で新聞やテレビで話をたくさん聞きました。その中で、心に残っている話があります。八月九日。ソ連が侵入し、八月十五日を過ぎても戦闘は続き、十七～三十二歳までの六人が手首を自分で切るなどして、亡くなった。戦争は終わっていたのに本当に悲しい出来事です。絶対に戦争をおこしてはいけません。そして原爆が落とされた唯一の国として戦争はしてはいけないということを世界中に伝えなければならないと感じました。

もし戦争がなければ、このような出来事はおこらず、世界は平和で幸だったと思います。

この世界を平和にしていくには、どうしたらよいのでしょうか。私は考えました。一つ目は、戦争をなくすことです。戦争がなくなれば、今戦争をしている国の人々はきっと辛い生活から抜け出し、幸せな生活を送れるでしょう。それに亡くなる人も、悲しむ人も、苦しむ人も少なくなるでしょう。もし日本で戦争がおきていなければ、原爆が落とされることなく、日本は平和だったと思います。

二つ目は、みんなが広い心を持ち、他人のことも考えることです。もしこれができていれば、領土、資源などで争うこともなく平和だと思います。この二つが実現できたとしたらきっとこの世界は平和になり明るくなり、人々は幸せに楽しく笑顔で、くらす世界になると思います。もし実現できたら。ではなく実現していかなければいつまでもこの世界は、平和にならないと私は考えます。

「思い出」

くぼ きゅうじ
久保 久次 さん

俺は演歌が大好きだ、今思うとそれはおばあちゃんの影響だと思う、おばあちゃんはラジオから流れて来る演歌をいつも聞いていた。ダイヤルを合せられないので俺がいつもダイヤルの目盛を合わせてやっていた。うれしそうにラジオを見ながら流れて来る歌を聞いていた。そんなおばあちゃんがよく言っていた言葉があった。戦死した俺がいつか帰って来そうな、いつもそう思って居ると、風で雨戸がガタガタ音がしても、外で何か物音がしても“あっ、帰って来たのかなー、そう思って外に出て見た事が何度あった事だろうと、よく俺に話してくれた。俺の父親は俺が二才の時に出征して行った。おふくろが言うには俺が後を追うので可愛そうなので、寝て居る時に出て行った。そう聞いたが自分も辛かったんだろうと思う。この頃そんな事を、ふと、思い出す時がある。俺は三人の子供が居る、皆結婚して孫達も居る。戦死した父親も子達の成長を楽しみに。又孫達をかたぐるまでもしてやりたかったんだろうなとしみじみと思う。俺は今、おじいちゃんおじいちゃんと孫達が慕って来てくれる、とても幸せを感じる。俺の子供達は生れた時からやさしいおじいちゃんには戦死していない。おじいちゃんに甘えて何か買ってもらう事が出来なかった。子供達が不憫に思えた。俺は意識しておじいちゃん、父親の二役を務めて来た。おふくろに育ててもらい、男親の思いがあったのかもしれない。おふくろは新婚生活は三年少ししかなかった。俺が三才、弟はまだおふくろのお腹の中だった。頼りの夫に戦死されてしまい俺達、兄弟二人を育ててくれたおふくろから愚痴話を聞いた事がなかった。そんなおふくろから言われた言葉で今でも頭の中に残って居る言葉が一つある。「おめえら二人が居たから、どこにも行かないで今日まで頑張って来たんだ」今でもその時の事を思い出すと目頭が熱くなる。そして俺が十七才の時後はまかせるからと言って家の家計を俺に渡した。それから今日まで多数の人に励まされ、又、助けられ、気が付いたら七十三才になってしまった。星霜移り人は去りと言うが、お世話になった人達も多くの方がすでに先き立って行ってしまった。出来るものなら今一度おやじに会いたい。おふくろに会いたい。弟と一緒に四人で手をつないで歩きたい。戦死してしまったので親子四人が顔を会わせる事は出来なかった。戦争のない平和な世に生きて居る人達が、これを読んで一人でも平和のありがたさを感じてくれたらうれしい。

講師プロフィール

ふじもん先生の旅プロジェクト

代表 ふじもと まさき 藤本 正樹 氏



■職歴・経歴および活動歴

大学卒業後、プロスキー選手として国内外で活動。引退後、ワーキングホリデーにてオーストラリアに渡り、日本語教師、空手の指導員、日本人会イベントの運営など様々な活動に携わる。その後アジア地域を中心に世界を放浪し、帰国する。

帰国後、教育の世界へ。私立高校教諭、板橋区教育委員会特別支援教育巡回指導員を経て、埼玉県公立中学校の教諭となる。中学生と社会人が働く目的について語り合う対話型授業「ハタモク中学」や、プロの格闘家を招待しての体験学習授業などが注目され、読売新聞に掲載される。

教員生活を通じて感じ続けた「子どもたちの世界観をもっと広げたい」という思いを胸に、2013年3月に中学校を退職し、再び世界一周放浪の旅へ。旅中は世界各地で活躍する日本人へのインタビューや、日本人学校および現地の学校への取材活動も行う。世界5大陸縦横断を果たし、合計世界約87か国を訪問。

2015年「ふじもん旅プロジェクト・世界一の授業」を立ち上げ、自らの旅の経験とそこから得られたグローバル時代に必要な見識について、日本の子どもたちや若い世代を中心に、出張授業や講演、研修などでフィードバックする活動を始める。現在でも旅をしながら世界を伝え続ける「旅人先生」として、全国の学校や塾、教育イベント等で登壇している。



平和記念講演会要旨

藤本正樹氏による講演会の要旨は、次のとおりです。

〔自己紹介〕

講師の旅歴の動画を使用して、参加者に対して講師がどんな人物なのかをしっかりと伝えていただきました。

〔アイスブレイク〕

会場内で参加者と簡単なゲームを行い、参加者と講師のよい関係性を築きました。

〔「ペアワーク：そもそもの問い」～そもそも平和ってなに？〕

参加者がペアとなり、「そもそも平和って何か、どんな状態だったら平和なのかについて」話し合い、参加者同士が平和に関する認識を確認し合いました。

〔「ペアワーク：そもそもの問い」～そもそも日本って平和なの？〕

参加者がペアとなり、「そもそも日本って平和なのかについて」話し合い、参加者同士が現在の日本の平和の状況に関する認識を確認し合いました。

〔僕が見てきた「世界のリアル」〕

講師が自らの足で歩いてきた世界 87 か国。豊富な写真や動画、そしてたくさんのエピソードを用いて、世界の本当の伝えていただきました。そこにあるのは笑顔や優しさがほとんどであり、日本人が思い込みがちである「世界って危ないところが多い」という認識は、決してすべての地域のあてはまるものではないことに触れさせていただきました。

〔「紛争」と「貧困」の中にある平和〕

講師が訪れたスラムや難民キャンプの現実を伝えていただきました。どんなに貧しくともそこには輝かしい笑顔があり、家族の愛があること伝えていただきました。そして、その事実と、リアルには存在する過酷な生活を同時に紹介していただき、平和の意味を参加者に問いかけるものとなりました。

そして、参加者は、もう一度ペアとなって「そもそも平和って何か？」について話し合い、世界の情勢を知る前と後での変化を考えてみました。

〔世界が日本を見る目〕

講師から「世界の日本を見る眼についても言及し、日本という国が世界から期待をされているということ、日本人として世界平和にいかに関与するかが非常に重要であるということ、講師自らの経験と共に客観的なデータを示しながら説明をしていただきました。

〔まずは「知ること」が、世界平和への第一歩〕

講師から「私たちは学校の勉強で「左脳の知識として」の平和について知っていること。しかし、それは心に落ちていないことがほとんどで、知識としての平和に過ぎない。それを心に落とす「本当の意味で知ること」大切であること、世界の真実の平和について説明を受け、世界の平和への理解を深めることができました。

フェスティバル開催までの経緯

回	年月日	会場	内容
1	平成28年5月26日	市役所(市長公室)	<ul style="list-style-type: none"> ・委嘱式 ・第1回会議 ・会長及び副会長選出 ・平和推進事業骨子(案)の検討
2	平成28年6月16日	市役所(A201 会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・平和推進事業実施計画(案)の検討 ・ポスター、チラシ(案)の検討 ・広報活動計画(案)の検討
3	平成28年9月15日	市役所(A大会議室)	<ul style="list-style-type: none"> ・当日プログラム(案)の検討 ・当日の役割分担(案)の検討 ・シナリオ(案)の検討
4	平成28年10月1日	市民交流プラザ (多目的ホール)	<ul style="list-style-type: none"> ・フェスティバル開催日
5	平成28年10月1日	市内会場	<ul style="list-style-type: none"> ・反省会

ふじみ野市平和推進事業実行委員会設置要綱

平成28年3月25日制定

(名称)

第1条 この会は、ふじみ野市平和事業実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

(目的)

第2条 実行委員会は、ふじみ野市及びふじみ野市教育委員会が共催で開催する「平和推進事業」実施に当たり、その企画並びに運営等に参加・協力し、もって市民の平和に対する意識高揚を図り、恒久平和の実現に向けた市民活動の推進を図ること目的とする

(組織)

第3条 実行委員会は、前条の目的に賛同する団体及び個人をもって組織する。

(事務所)

第4条 実行委員会の事務所は、ふじみ野市役所市民生活部協働推進課内に置く。

(役員)

第5条 実行委員会に次の役員を置き、会員の互選により選任する。

会 長 1人

副会長 若干人

2 会長は、この会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代理する。

4 役員任期は、就任した日から当該年度の事業が完了した日までとする。

(会議)

第6条 実行委員会の会議は、必要の都度会長が招集し、会長が会議の議長となる。

2 会議は、その構成員の2分の1以上の出席がなければ会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、会長が実行委員会の諮り、決定する。

附 則

この規程は、平成28年3月25日から施行する。

ふじみ野市平和推進事業実行委員会委員名簿

五十音順（委員）／敬称略

No.	役 職	氏 名	備 考
1	会 長	ぐんじ おしん 郡司 お新	ふじみ野市公民館運営審議会 委員長
2	副会長	たむら よしと 田村 芳人	公募
3	委 員	おさかべ まさなお 小坂部 政直	公募
4	委 員	こばやし あけみ 小林 暁美	特定非営利活動法人ふじみの 国際交流センター
5	委 員	すどう さだゆき 須藤 貞之	ふじみ野市教育委員会社会教 育委員会議
6	委 員	たけい のりゆき 武井 紀幸	ふじみ野市遺族会副会長
7	委 員	ちば しん 千葉 信	ふじみ野市人権擁護委員入間 東部部会部会長
8	委 員	はやせ あきら 早瀬 晶	公募
9	委 員	ふじた よしお 藤田 義雄	ふじみ野市自治組織連合会広 報部会長
10	委 員	ほしの ひろあき 星野 弘明	一般社団法人 東入間青年会 議所理事長
11	委 員	ゆあさ やすゆき 湯浅 康之	ふじみ野市PTA 連合会顧問 (東原小学校)

〔編集・発行〕

〒356-8501

埼玉県ふじみ野市福岡一丁目1番1号

●ふじみ野市 市民生活部 協働推進課地域振興係

電話番号 049-262-9016 (直通) FAX番号 049-266-1227

Eメールアドレス chiikishinkou@city.fujimino.saitama.jp

●ふじみ野市 教育部 社会教育課社会教育係

電話番号 049-220-2087 (直通) FAX番号 049-261-5100

Eメールアドレス syakaikyoiku@city.fujimino.saitama.jp